

# 防寒対策の徹底を(特に子牛に)

## ◆なぜ、子牛は寒さに弱いのか？

- ◎ 子牛は親牛に比べて皮下脂肪が少ないから、寒さに弱いのです。
- ◎ 体重が小さい割には体表面積が広いので、体表面からの熱発散が多いのです。
- ◎ 第1胃は発酵槽(第1胃内部の温度は約40℃)となり暖かいのですが、子牛の第1胃は発達してないので、体内からの熱発生が少なく寒いのです。

### 牛にとって過ごしやすい温度とは？

	適温域	生産環境境界	
		低温	高温
哺乳子牛	13～25	5	32
育成牛	4～20	-10	32
繁殖牛	10～15	-10	30
肥育牛	15～25	5	30

## ◆悪い環境を作っているのは「飼い主さん自身」なんですよ？

### ◎ 体が濡れたままでは寒いのです。

体が濡れたままでは気化熱で体温を下げてしまいます。皆さんも風呂上がり濡れたままでは寒くないですか？ 敷料を敷いて牛床を乾かし、体が濡れないようにしてあげましょう。

### ◎ 寒風・隙間風などが直接あたるようでは困ります。

寒風にさらされると、体温が低下して風邪を引きやすくなります。また、お腹を冷やすと下痢をしたりします。風邪や下痢に罹り増体や発育が悪くなると、血統が良くても購買者の皆さんも買う気になりませんよ。早速、牛舎周りの総点検をしてください。

## ◆どんな対策が必要でしょうか？

### ◎ 北風(寒風)を防がないと子牛は危険です。

「風邪は万病の元」といいますが、風邪が原因で下痢を起こしたり、さらに肺炎を起こしたりします。子牛が亡くなってしまうようなことがあっては大変ですよ。



### ◎ 新生子牛のための暖かい個室を確保して上げましょう

風が入り込まない部屋を確保してあげましょう。但し、締め切っては問題です。完全に締め切ってしまうと有毒なアンモニアガスなどを吸い込み、呼吸器病などを起こします。部屋が確保できない場合は子牛部屋の三方向(東西北)をしっかり囲ってあげましょう。日中、南側は太陽の日差しが差し込むように開けてあげましょう。図のような子牛専用の個室を作ってあげたら衛生的です。床には、お腹を冷やさないう、ノコクズやワラなど敷いて暖かくしてあげてください。

子牛の個室と乾いた床を。



◎ さらに保温対策を取ってあげて下さい。

遠赤外線暖房装置も売られています。寒さが厳しいときの必需品となるでしょう。私達もストーブのそばにいますと、遠赤外線の効果で体の芯から暖まってきます。但し設置位置に注意しヤケドをさせないようにしましょうね。また防寒保温用の洋服(カウジャケット)も売られています。お母さん達は工夫次第で自分で作れるかも。



遠赤外線効果で体の内部まで暖かい



◎ 風のない暖かい日は日光浴もさせてあげて下さい。

ビタミンDは紫外線を浴びて体内で作られます。ビタミンDはカルシウムの吸収を助け、骨を強くする作用があります。また紫外線は殺菌作用があり、真菌による皮膚病の予防にも効果があります。風の穏やかな天気の良い日は、親子とも外へ出して日光浴をさせてあげましょう。